

トイレ貸して店もPR

町ゆく人にトイレを提供し、ついでに店をPRしませんか。トイレを貸す店や企業を募って絵文字で知らせる試み「オープントイレプロジェクト」が横浜市で始動した。元町などの9店が掲げた絵文字は東京や三重にも広がりそうだ。

NPO、市内で試み



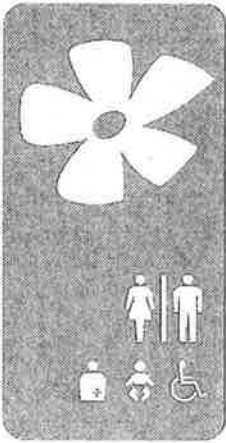
地上135センチの高さが見やすい、多機能トイレの存在を知らせるステッカーの位置を定める金子健二さん＝横浜市中区のマリンタワー

絵文字でサイン

トイレ貸し出しサイン「オープントイレマーク」

は、多機能トイレの位置情報を集めたサイトを運営するNPO法人Checkと、大川印刷(横浜市戸塚区)が共同開発した。Checkは、多機能トイレの場所を全国で約3万5千カ所調べ、インターネット上で公開している。「パソコンや携帯電話を使えない人をどうするかが課題でした」と金子健二代表。

横浜市直権の社会貢献をを目指す起業家の集まりで、金子さんと昨夏会った大川印刷の大川哲郎社長は「一



オープントイレマーク©
NDC Graphics+NPO
Check Ohkawa Inc.

目で『トイレを借りられる』とわかる仕組みを作ろう」と協力を申し出た。「公衆トイレが少なくても観光客は安心だし、店にとっても人を店内に呼び込むきっかけになる」

同社は以前から、直感的にわかる絵文字の力に注目。国内の標準案内図記号約140種の大半を手がけたデザイン会社とつきあいがあり、今回も「トイレ貸します」の意思を伝える絵文字の制作を依頼した。

元町などの店主らは「店頭貼るならおしゃれでない」と。そこで登山中の用足しを「花摘みに行く」と表現するのを参考に花をあしらひ、地色は安心感を表す緑系の黄緑に。こうして5弁の白い花の下に、男女のシルエットが並ぶおなじみのトイレマークを配した絵文字が誕生した。

トイレを提供する店や企業は、800円を払ってマークを印刷したステッカー

1枚をもらい、入り口などに貼る。多機能トイレは「車いす対応」「ベビーチェア付き」などの絵文字が加わる。ネット検索にも連動する。マークの定着を優先し、多機能以外のトイレも歓迎する。賛同企業の一つ、マリンタワーは「マークで、より気兼ねなく利用してもらえるようになれば」。

Check副理事で、手足が不自由で電動車いすを使う今西正義さん(62)は「出先で探すのに苦労した多機能トイレが、これならひと目で分かる」と期待する。

横浜観光プロモーション事業に認定され、手始めに作った計400枚のステッカーは元町、中華街、山下地区に限って今年度は無料で配布する。金子さんによると東京都墨田区や三重県四日市市と周辺自治体も導入を検討中という。問い合わせは大川印刷内の同プロジェクト事務局(045・441・2011)へ。

多機能も表示／ネット連動